

キラリと光るダイセル製品のお得情報が満載！
キラきら情報通信@ダイセル



アメリカから帰国

コロナ禍のアメリカは こんなところでした



Analytical Tools BU研究開発センター
大西 崇文 さん

皆さん、こんにちは。

COVID-19(以降、コロナと略す)の大流行で様々な変化や我慢を強いられる中、どのようにお過ごしでしょうか？

私は、この8月末までアメリカのペンシルバニア州のウェストチェスターにあるChiral Technologies, Inc(以降、CTIと略す)で働いており、このコロナの大流行をアメリカで経験するという貴重なような、嬉しくないような経験をいたしました。アメリカでのコロナの大流行についてはTVなどでも報じられていますが、実際どのようなものだったのかご紹介したいと思います。

アメリカでのコロナの流行は**北西部のワシントン州**から始まりました。ここは不思議な州で一部ではアメリカの疫病発祥の地のように言われることもあるようです。スペイン風邪、狂牛病がワシントン州から始まり全米へ広がっていきました。今回のコロナも最初の感染者はワシントン州で見つかっています。ワシントン州から始まる明確な理由は分かってはいないようです。

さて話を元に戻しますが、ワシントン州で見つかったコロナ患者ですが、**瞬く間に西海岸全域に広がっていきました**。西海岸はアジア圏との飛行機の往来が多く、そのため西海岸でコロナが急速広がったのではないかと推測されます。一方、東海岸では**ニューヨーク州の田舎町からコロナが広がり**、あっという間にニューヨーク市もコロナ患者で溢れかえりました。

北東エリアのコロナはヨーロッパから来たと言われています。ご存じの通りアメリカの北東エリアはニューヨークとワシントンDCを中心として栄えており、その往来はビジネス、観光の両面で極めて盛んです。CTIのあるペンシルバニア州はそれらの両都市の間に位置するため、あっという間にコロナが広まり、3月末にはそれらの大都市はロックダウンしました。

私が住んでいたエクストンという町とCTIのあったウェストチェスターはチェスター郡に属しており、ペンシルバニアの大都市フィラデルフィアに隣接しており、フィラデルフィアのロックダウンとほぼ同時に町の機能が停止しました。機能停止と言っても全てが停止するわけではなく、食料品・医薬品・医療関係の業務は対策をとって営業可能であり、スーパーや病院はいくつかの制限を設けつつもいつも通りという状況でした。



次頁へ続く↓↓

また、CTIも医薬品の分析や品質管理で使用されるキラルカラムを販売しているということで、**医薬品関連事業に分類され、機能を完全に停止することはありませんでしたが、かなりの影響を受けました。**

さて、ロックダウン中の私の会社生活、私たち夫婦の日常生活、またそこから感じたことを少し紹介したいと思います。

まず会社生活ですが、3月末から4月下旬までの1か月間は完全在宅勤務になり、自宅でこれまで取得した様々なデータの整理や報告資料の作成を行っていました。**成果主義のアメリカ**では各従業員が何をしているか細かく確認するようなことはなく、アウトプット(データや資料)で判断するようで、**成果主義とはこういうものだ**というのを実感しました。

また、従業員が不安にならないように定期的にZoomを使った会議を行い、状況のアップデートがなされ、従業員を十分にケアしていました。日本でも流行ったのかもしれませんが、Zoom飲み会みたいなものもありました。

私生活では、3月中旬頃にはコロナがTVなどで大々的に取り扱われるようになり、日本と同じく、**スーパーの陳列棚から様々な食料品や生活用品がなくなりました。**アメリカのスーパーは日本に比べて敷地がとにかく広く、莫大な量の在庫をかかえていますので、今まで欠品というようなケースはほとんど遭遇しませんでした。今回のコロナでは**店中の棚がほとんど空**という事態に陥りました。日本と同じく、トイレトーパー、ティッシュペーパー、キッチンペーパーの買い占めがすごかったようで、同僚の中にはトイレトーパーが売っていない、馬鹿げている！と怒っている人もいました。我が家は奇跡的にコロナの直前に自宅在庫が切れ、買い足したばかりで困るようなことはありませんでした。また、食料品ではパスタや缶詰スープなど日持ちする食料品が飛ぶように売れ、1家族2個までなどの制限措置が取られました。我が家の御用達、Wegmansというスーパーはアジアフードの取り扱いもあり、米国人には物珍しいものも多く、さすがに売れ残りがある程度あり、それらを購入することで生きながらえていました。



スーパーの棚が空っぽでした。



スーパーの入り口には“NO MASK NO ENTRY”

もう一点、皆さん気になるのはマスク着用に関することだと思いますが、コロナ初期にはCDC(米国疾病対策予防センター)でさえも、**ソーシャルディスタンスだけで十分で、マスクの着用は不要と発表しており、マスクの着用はほぼゼロ**でした。私たち家族はマスクを着用したくとも**マスクしていることでコロナ患者ではと疑われるリスク**があったためマスクを着けず、戦々恐々としながら買い物に行っていました(もちろん早朝、最小限の行動範囲として自己防衛を図りました)。実際にニューヨークなどの大都市ではマスクをしたアジア人への差別行為や暴力行為があったと聞いています。ところが**1、2週間ほどしてCDCがマスクは有効(無症状保菌者によるコロナウィルスの拡散抑制に効果がある)**と発表されたらたん、私の行動範囲内ではマスクをしていない人はいないと言えるくらい**マスク着用率がアップ**しました。マスクがない、あるいは買えなかった人はスカーフやネックウォーマーを口にあてるなど、しっかりと全員が対応していました。このあたり、アメリカという国の文化(向かう方向が決まったら全員団結して向かう)を感じました。もちろん広い国で移民も多く、地域や人種の違いから幾ばくかの対応や意識の違いがあります。日本のニュースではそういうところを切り取って報道されており、アメリカはああだこうだといわれているのを見ると悲しくなりました。

実際にアメリカに住み、いろいろなことを目の当たりにしてアメリカという国、人々への印象が私たち家族の中で大きく変化しました。一日でも早く世界中がコロナに打ち勝ち、平穏な生活が戻ってくることを願います。

発行元: 株式会社ダイセル CPIカンパニー

〔東京〕 〒108-8230 東京都港区港南2-18-1 JR品川イーストビル

TEL: 03-6711-8222 FAX: 03-6711-8228

〔大阪〕 〒530-0011 大阪市北区大深町3-1 グランフロント大阪タワーB

TEL: 06-7639-7221 FAX: 06-7639-7228

ヘルプデスク フリーダイヤル: 0120-780-104

HP: <https://www.daicelchiral.com/>